

『全国の拠点カタログ』解説文 印刷用ページ

拠点カタログ改善のため、ご意見をお願いします！

国土交通省都市政策課では、都市構造上の「拠点」を、全国一律の方法で、統計データに基づいて客観的に抽出することを試みています。その結果をご紹介するのが、この『全国の拠点カタログ』ホームページです。

身近な地域などでどこが拠点として抽出されているかご確認頂き、拠点の評価の仕方などについてぜひ、ご意見をお寄せ下さい。

以下の記事を、《1》から順にご覧下さい。

《1》企画の背景と目的

【背景】

- ・急激な人口減少と高齢化に直面する我が国の今後のまちづくりでは、生活利便施設等がまとまって立地し、住民が公共交通でアクセスできる「拠点」の形成など、コンパクトシティの推進が求められています。こうした「拠点」が自立して機能し、まちの賑わいを創出し続けるために必要な条件（都市機能、人口密度、交通網等）を明らかにすることが重要です。
- ・都市のコンパクト化をより効果的に進めるためには、都市の「中心拠点」だけでなく、周辺の「地域生活拠点等」も合わせて、多極的な都市構造を構築することが重要です。
- ・「地域生活拠点等」は、現状では、各自治体が自主的に策定した基準により、立地適正化計画の枠組等を活用して設定されています。しかし、拠点として抽出する都市機能など、設定の考え方は都市ごとに異なっているのが実情です。

【目的】

- ・上記のように、各自治体が独自に拠点を設定している状況を踏まえ、統計データに基づいて、全国一律の方法で、客観的に「拠点」を抽出することを試みることとしました。そして抽出した拠点を紹介するのが、この『全国の拠点カタログ』ホームページです。
- ・都市の賑わいづくりや、まちづくりの担い手育成等の検討が進む中、それらが十分に効果を発揮するためには、各地の拠点の実態を踏まえた施策立案が求められます。この『拠点カタログ』ホームページは、その素材として自治体等に活用いただくことを目的としています。

《2》拠点カタログ改善に向けたお願い

【回答の進め方】

- ・今回、お声掛けさせていただいた自治体のみなさま、調査へのご協力、ありがとうございます。
- ・以下の要領でお進み下さい。

【閲覧頂く順序】

- ・まず、ページ《1》～《6》まで順に読み進めて下さい。
- ・『全国の拠点カタログ』タイトル下の「市町村名で検索」窓から、お勤めの地域や近隣自治体など“土地勘のある”地域（市町村）を、ぜひ色々と検索してみて下さい。
- ・最後に、ページ《7》をご覧頂き、ご意見や感想などを、事務局にお送り下さい。

【意見把握のスケジュール】

- ・この『拠点カタログ』ホームページは、みなさまからのご意見を踏まえて更新していきます。2019年度は、ご意見の募集を以下の3回、行う予定です。

第1回：2019年9月9日(月)～20日(金) ← 今回

第2回：2019年10月21日(月)～11月1日(金)

第3回：2019年12月16日(月)～12月27日(金)

《3》本調査で扱う拠点と後背圏

【拠点とは？】

- ・都市の骨格構造を考えるときに、周囲よりも相対的に都市機能が集積し、多くの利用者を吸引している場所を「拠点」と呼ぶことします。

【後背圏とは？】

- ・拠点に集まつくる利用者の居住範囲（利用圏域）を「後背圏」と呼ぶことします。

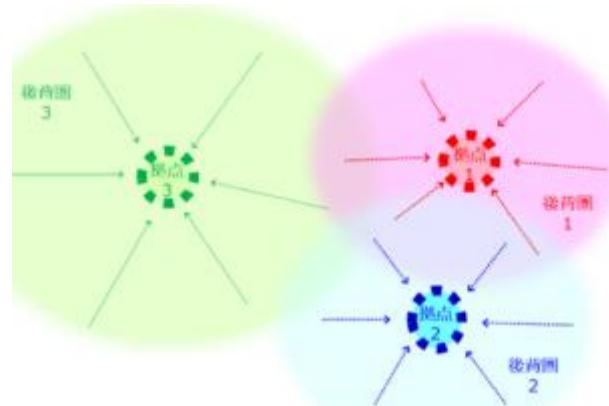


図1 拠点と後背圏

【関連計画における拠点① 立地適正化計画】

- 都市計画法を中心とした従来の土地利用の計画に加えて、居住機能や都市機能の誘導によりコンパクトシティ形成に向けた取組を推進するため、平成26年に「立地適正化計画」が制度化されました。①「中心拠点、地域／生活拠点」、「基幹的な公共交通軸」等を都市の骨格構造とし、中心拠点は「市域各所から公共交通アクセス性に優れ、市民に、行政中枢機能、総合病院、相当程度の商業集積などの高次の都市機能を提供する拠点」、地域／生活拠点は「地域住民に、行政支所機能、診療所、食品スーパーなど、主として日常的な生活サービス機能を提供する拠点」として位置付けられています。（同計画作成の手引き）

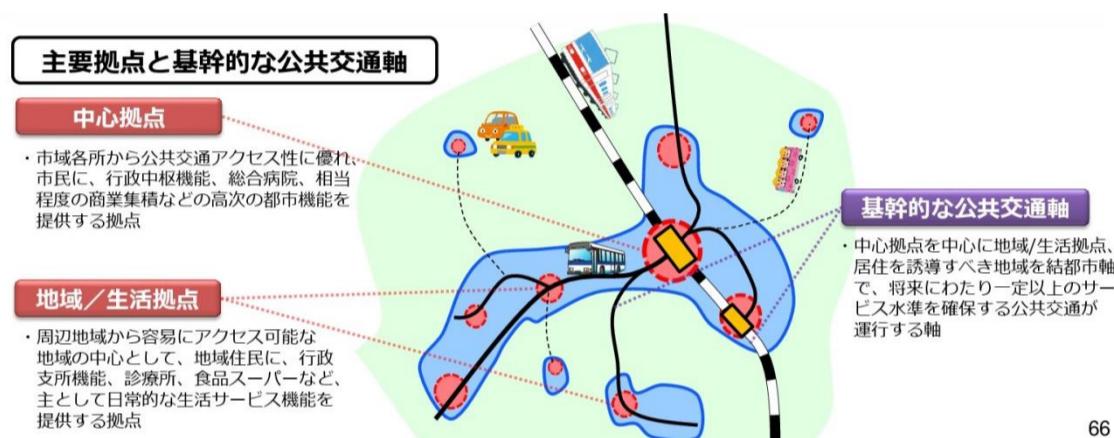


図2 立地適正化計画の作成の手引きにおける拠点の位置づけ

資料：立地適正化計画作成の手引き

【関連計画における拠点② 小さな拠点】

- 集落地域では、平成27年に改正された地域再生法に基づき、生活・福祉サービスを一定のエリア内に集め、周辺集落と交通ネットワークで結ぶ「小さな拠点」の形成を促進することとされています。
- 小さな拠点は「小学校区など複数の集落が集まる基礎的な生活圏の中で分散している様々なサービスや地域活動の場などを『合わせ技』でつなぎ、人やモノ、サービスの循環を図ることで、生活を支える新しい地域運営の仕組みをつくろうとする取組」とされています。（「【実践編】『小さな拠点』づくりガイドブック」）



※「小さな拠点」は で囲んだエリア、「ふるさと集落生活圏」は のエリアです。

図3「小さな拠点」のイメージ

資料：【実践編】「小さな拠点」づくりガイドブック

《4》 抛点と後背圏の抽出方法

【メッシュデータの採用】

- 全国を一律の方法で抛点性を評価する方策として、メッシュデータを活用することとしました。メッシュとは、地表面を緯度・経度によって画一的に区切った区画で、面積もほぼ一定です。
- 今回の分析で用いるメッシュのスケールは、抛点候補のまとめが適切に抽出できる、1 km メッシュを採用することとしました。

【抛点性を従業者数で評価】

- 抛点が有する都市機能には、最寄生活機能、日常生活機能、広域的な機能等がありますが、実際に立地している機能は、抛点によって様々です。例えば子育て施設のように、どの地域にも存在する施設も含まれている。また、今後の人口動態によっては、施設の撤退も発生し得るため、立地する施設数の大小で抛点を評価することは困難です。
- 一方、都市機能を支える担い手として従業者がいます。従業者数の分布をみると、地域生活抛点等は、都市の郊外部にも配置されており、人口密度は、周辺地域と比較すると相対的に高い傾向にあることが分かっています。この状況を勘案し、都市機能の集積している状況を評価する（= 抛点を抽出する）指標として、従業者数を活用することとしました。

【メッシュデータを活用した抛点候補の抽出方法】

- 周辺の中で従業者数が相対的に多いメッシュを抽出する方法として、あるメッシュに隣接する 8 つのメッシュのうち、最も従業者数が高いメッシュと結ぶことを繰り返し、ピークを探索する方法で抛点候補を抽出しました。



図 4 抛点の抽出方法のイメージ

【後背圏の範囲の判定方法】

- 前述した抛点の抽出過程において、抛点候補のメッシュと結ばれたメッシュの範囲を「後背圏」としました。



図 5 抛点と後背圏の設定イメージ

注) 図中の数字は、各メッシュの従業人口

【抛点の抽出】

- この方法で、抛点の候補を全国で約 19,000 箇所選定しました。
(抛点候補の全リストについては《7》をご覧下さい。)
- これらの候補のうち、以下の条件をいずれも満たす約 4,500 箇所を、暫定的に抛点として掲載しました。
 - 後背圏メッシュの数が 10 以上
 - 抛点候補メッシュの従業者数が 800 人以上

《5》 抛点カルテの見方

【任意の地域の抛点を調べる方法】

- 『全国の抛点カタログ』タイトル下の「市町村名で検索」窓に市町村名を入力し、Enter を押して下さい。
- 当該市町村の抛点が一覧で表示されます。こうして表示される 1 つ 1 つの抛点候補の記事を「抛点カルテ」と呼びます。

【拠点カルテの構成】

- ・ 拠点カルテは、抽出した拠点 1箇所につき 1枚用意しています。各拠点カルテは、次のように構成しています。

◆表1 拠点カルテの構成要素の解説

構成要素	解説
拠点名（立地する自治体名）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点名は、暫定的に、抽出した 1km メッシュ()の中心が位置する町字名としています。立地する自治体名も同様です。
位置する自治体の全体図	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点の位置を示す参考として、位置する自治体（市町村）の範囲を示しています。表示には Google Maps を利用しています。拡大縮小やドラッグ操作が可能です。
拠点と後背圏の位置図	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点は、1km メッシュ単位で抽出しています。その拠点の位置を示すメッシュを赤の実線で表示しています。 ※拠点はあくまで、拠点の候補となる地区の概ねの中心地を示したものです。 ・ 後背圏も同様に 1km メッシュ単位で抽出し、その範囲を赤の破線で表示しています。 ※後背圏も、計算上組み入れたメッシュの集合を示したものです。
拠点の諸元表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下表のとおり、データを整理しています。

◆表2 拠点の諸元表の解説

諸元表の要素	解説
人口	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該拠点メッシュの総人口（出典：平成 27 年国勢調査）
従業者数 第 3 次産業人口	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該拠点メッシュの従業者数（全産業及び第 3 次産業）（出典：平成 26 年経済センサス）
後背圏メッシュ数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該拠点の後背圏と判定されたメッシュの数 (後背圏の判定方法については《4》をご覧下さい。)
後背圏人口	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後背圏と判定されたメッシュ（当該拠点も含む）における従業者数（全産業）
鉄道駅、バス停、市町村役場の支所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該拠点メッシュ内の各施設数。出典は国土数値情報。施設の定義は出典資料による。
百貨店、総合スーパー、コンビニエンスストア、病院、診療所、銀行、郵便局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該拠点メッシュ内の各施設数。出典は平成 26 年経済センサス。施設の定義は出典資料による。

《6》ご意見をいただきたい事項

- ・ この『全国の拠点カタログ』において、身近な地域などでどこが拠点になっているかご確認頂き、抽出の方法や抽出した結果に対する評価などについて、ぜひ、ご意見をお寄せ下さい。
- ・ 以下の各設問について、**回答を電子メール本文に記載頂き、下記の回答送付先宛にお送り下さい。**

設問①：掲載した拠点やその後背圏の範囲は、地域をよくご存じのみなさまから見て適切でしょうか？

適切でないと思われる拠点が含まれていた場合、その名称と、適切でないと思われる理由を教えてください。

設問②：拠点の抽出のされ方を、周辺の自治体と見較べたときのバランスは適切でしょうか？

お気づきの点がありましたら、ご指摘ください。

設問③：拠点として、抽出が漏れていると思われる地区がありましたら、その場所（地名）と、代表的な施設名または集積している都市機能の種類等を教えてください。また、後背圏（商圈）に特徴がありましたら、教えてください

設問④：その他、『全国拠点カタログ』サイト全般について、ご感想やお気づきの点がありましたら、教えてください。

【回答送付及び問合せ先】

- ・ 調査受託機関：一般財団法人計量計画研究所 都市・地域環境部門（担当：森尾、溝口）
連絡先：（電話）：03-3268-9909（都市地域・環境部門 代表）
電子メール：kyoten@ibs.or.jp

お願いは以上になります。お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございました。

ご指摘を踏まえて改善してまいります。

【調査発注元】

- ・ 国土交通省 都市局 都市政策課 都市再構築政策室（担当：白倉、松原）
連絡先：（電話）：03-5253-8422（直通）

《7》参考資料

- ・参考1 拠点候補の一覧（全国約19,000箇所）Excel
- ・参考2 『全国の拠点カタログ』解説部分 印刷用PDF

以上